

# 平成25年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校

学校長 棒田 章夫

## 1 教育目標

- (1) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。
- (2) モラルを重んじ、各自が責任感をもって人を思いやる心豊かな人間を育成する。
- (3) 健康や体力の増進に努め、逞しく活力ある人間を育成する。
- (4) ふるさとに誇りを持ち、広い視野に立って社会に貢献できる人間を育成する。

## 2 中・長期的目標

### (1) 学校の現状

- ① 本県基幹産業を担う人材育成を目的とする能登地区唯一の工業科単独高校として、もの作りを中心とした専門教育を行い、就職希望者のほとんどは、専門を生かした仕事に就いている。昨今の経済状況の変化に伴い就職戦線は激化しており、今まで以上に社会が必要としている人材の育成が必要となっている。
- ② 資格取得を奨励し、多くの資格に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者も増加傾向にある。一方、部活動も大変盛んであり、資格取得のための放課後や休業中の補習との両立をめざし、工夫・努力している。
- ③ 部活動を推進し、95%を超える部加入率、80%を超える運動部加入率を維持しており、健全な心身の育成に向けて、成果を上げている。
- ④ 地域連携を推進し、生徒の社会貢献に対する意識が上がってきている。

### (2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 基礎・基本の徹底と確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
- ② 時代を展望し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
- ③ 健康や体力の増進に努め、人間性を育み、心身ともに健康で逞しい人づくりをする。
- ④ 産業社会の変化に対応できる社会人としての総合的な能力を高め、問題解決能力・創造力・コミュニケーション能力に富む人づくりをする。

### (3) 教職員、学校組織などの望ましいあり方

- ① 教職員の意識改革を図り、一人ひとりが学校経営に参画する意識を持ち、全職員が協力して、学校運営に組織的に取り組む。
- ② 自己評価や外部評価を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、指導力の向上や授業改善に努める。
- ③ 産業構造の変化や技術革新に対応できるよう産業界の動向を常に把握するとともに、本校に適した指導内容・教育課程・教育システムを模索し、地域に必要とされる「ものづくり教育」をめざす。
- ④ 工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校作りを推し進める。

## 3 今年度の重点目標

- (1) 授業改善に一層取り組み、学力向上を図るとともに、資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。
- (2) 生徒会活動や部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健康で逞しい人づくりをめざす。
- (3) 工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境問題や社会貢献に対する意識を高める。

						石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 授業改善に一層取り組み、学力向上を図るとともに資格取得を奨励し、生徒全員の進路実現をめざす。	① 研究協議会やシラバスの内容を改善するとともに、新学習指導要領に沿った評価規準により授業の質を高め、学校全体で授業改善に取り組む。	教務課 各教科	互観授業や教科中心に研究協議会を実施し、その結果を踏まえた授業改善に取り組んでいるが、全体の取り組みにまで至っておらずさらなる指導力向上が望まれる。	【努力指標】 研究授業や互観授業で得られた授業改善の方策を学校全体で実践し、指導力の向上を図っている。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて75%以下 の場合は取組を再検討	教職員対象に 7月・12月にアンケート調査
	② 学力向上を図るために授業の課題やレポート内容を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	教務課 各教科	定期考査期間以外での家庭学習が少ない生徒が多い状況が続いており、学校での放課後補習での取組で成果が表れているが、家庭での自発的・継続的な学習にまで繋がっていない。	【満足度指標】 授業以外での学習と家庭学習に十分取り組むことができている。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて80%以下 の場合は取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的に行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	図書課	昨年度の貸し出し図書数は274冊であった。生徒1人当たり0.76冊であり、本校生徒の図書館利用や読書に親しむ姿勢は低調である。	【成果指標】 1人1冊以上を目標に、貸し出し図書数が増加した。	2学期末での貸し出し図書数が A 300冊以上 B 270冊～299冊 C 220冊～269冊 D 220冊未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・12月に調査
	④ 資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、課外補習をさらに充実させ合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格・検定取得に対する生徒の意識は高まっているが、年ごとに受検者数の増減が見られ、学科の枠を超えて種々の資格・検定に挑戦する取組が必要になっている。	【成果指標】 資格・検定試験合格者数が増加している。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 750人以上 B 650人～750人未満 C 500人～650人未満 D 500人未満	C・Dの場合は、問題点を分析し具体策を検討	1月末の資格・検定試験合格者数を検証
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	工業科 関連教科	昨年度のジュニアマイスター3種類の認定者は100人を越え、ゴールド・シルバーも過去最高数となったが、変動が激しく、ゴールド特別表彰者がいないなど、難易度の高い資格・検定への受験奨励と補習の充実が求められている。	【成果指標】 社会が専門高校生に求める専門的な資格や知識の指標となるジュニアマイスター顕彰認定者数が増加している。	ジュニアマイスターおよび校内認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	C・Dの場合は、取組を再検討	7月、1月の申請者数を検証
	⑥ インターンシップや地元企業説明会などを通して適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路指導課 工業科 学年	地域企業への理解を深め、仕事の意義を理解させるとともに、進路情報を的確に知らせ、意識を高める必要があるが、低学年ほど十分とはいえない。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識が高揚している。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や配布した進路情報により、意識が高まった生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	生徒対象に 7月、12月にアンケート調査
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	進路指導課 工業科 学年	昨年は、地元製造業の求人件数が昨年度とほぼ同じであった。しかし、採用人数が減り競争倍率が高くなってきている。今年度は、就職希望者も昨年度同様で約8割を占める。進学希望者も国公立大を目指す生徒もいる。求人開拓に努めると共に、基礎学力やコミュニケーション能力を高め、実力をつける必要がある。	【満足度指標】 適切な学力・面接等の指導により実力をつける。  【成果指標】 就職内定率を高める。	学力テストや面接指導等により、実力がついた割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満  学校幹旋就職試験の第1回目試験での内定率が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	3年生を対象に 12月にアンケート調査  3年生を対象に 秋に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
2 生徒会活動や部活動を活性化させ、人間性に富み、心身ともに健全で逞しい人づくりをめざす。	① 本校の運動部は、県高校総体・新人大会で団体・個人とも上位を目指し、高体連表彰取組賞を獲得する。	生徒会課 運動部顧問	昨年度ベスト8以上の成績をおさめた部活動は、県総体・新人で延べ11の部活動がおさめた。しかし、参加校数の違いで、高体連得点はのび悩んでいる。	【成果指標】 高体連の得点基準にしたがい、総合得点60点以上獲得する。	高体連基準総合得点が A 60点以上 B 50点以上60点未満 C 40点以上50点未満 D 30点未満	C・Dの場合は、取組を再検討	県総体、県新人大会の成績結果を検証
	② 文化部で部活動への重複加入を奨励し、各部の取組や活動に生徒が積極的に取り組む。	生徒会課 文化部顧問	近年校内外への発表・公開の機会を増やすことにより、年々活発になってきたが、同じ指標では比較にくい。	【満足度指標】 生徒は文化部活動をより活発にしようと行動しており、その取組について満足している。	文化部の活動に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて50%以下 の場合は再検討	各文化部対象に 7月・12月に調査
	③ 生徒会を中心にして行事への参画意識を高め、自主的に参加する行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事で生徒がより積極的に参加するよう工夫しており、昨年度は87%の生徒が「満足した。」と回答している。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満足度のいく行事になっている。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	④ 保健だよりや集会、SH等を利用して、生徒の心身の健康管理についての意識の高揚をはかる。	保健指導課 教育相談課 学年	運動部加入率が高いが、体調不良等による保健室の利用者が毎日数名いる。	【満足度指標】 自分自身の心と体の健康管理を日頃から意識して生活できている。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識して生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	A・B合わせて74%以下 の場合は取組を検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
3 工業学習成果の提供や奉仕活動等を通して地域社会との連携を深め、環境問題や社会貢献に対する意識を高める。	① 社会に貢献する大切さや必要性を認識するために、校外でも1日1善運動を推奨する。	生徒会課 学年	海岸清掃や地域イベント等に参加していることに加え、毎日の1日1善運動について、全校生徒の72%が実践している。	【満足度指標】 社会貢献活動の大切さを理解し、クラス、部活動、生徒個々で校外でも1日1善を実践している。	1日1善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	A・B合わせて60%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	② 社会生活を営む上で、ルールやマナーの必要性を理解させ、実践的指導により交通ルールとマナーを遵守する生徒を育てる。	生徒指導課 学年	約85%の生徒が通学時に自転車を使用しており、乗車ルールについて集会や朝礼時に指導をしている。安全や規範意識の向上は認められるが、まだ不徹底で苦情の連絡が入ることがある。	【満足度指標】 交通ルールを遵守した自転車運転で、安全に通学している。	自分自身の自転車乗車ルール（規則）について A ルールを守り安全に運転している B ルールをある程度守り運転している C ルールをあまり守らず運転している D ルールを守らず運転している	A・B合わせて80%以下 の場合は、全校的な意識向上への改革と指導法を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ Webページの定期的更新間隔を短くし、学校全体の情報公開のスピードを上げる。また、教育活動や部活動のタイムリーな情報を発信し、更新状況等を分かりやすくする。	情報管理課 総務課 工業科	Webページの更新回数は増加し、学校の活動状況や部活動の情報発信も増加したが、ページ内の写真や映像が少ない状況にある。また、情報発信の手段として、更なる活用が求められている。	【努力指標】 学校の様々な活動状況をタイムリーでスピーディに公開して、本校の魅力を十分に発信している。	ホームページを更新した回数が A 50回以上 B 40回以上50回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満	C・Dの場合は、取組を再検討	各担当に 7月・12月に調査
	④ 環境保全のこれまでの取組を継続し、ゴミ分別等が正しく行われているかを評価し、美化意識の向上を目指す。	総務課 保健指導課 学年	環境保全活動は年々着実に実行されているが、その取組に個人差が出てきている。	【成果指標】 各学期1週間程度各教室のゴミの分別を中心に1日20点満点で評価し、15点以上を獲得する。  【成果指標】 学校全体で環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでいる。	15点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満  環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでいる割合が A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	C・Dの場合は、取組を再検討  C・Dの場合は、取組を再検討	I SO委員により 6月、9月、12月に各教室を1週間調査し1日20点満点で評価  生徒対象に7月・12月にアンケート調査